

## 平成30年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

### 1 開催日時

平成30年7月23日（月） 午前10時～午前11時20分

### 2 開催場所

花巻市矢沢第1地割1番地36 宮沢賢治記念館多目的ルーム

### 3 出席者

#### (1) 委員5名

中島健次委員(矢沢地域振興会 副会長)、高橋則子委員(早池峰賢治の会 副会長)、瀬川卓哉委員(宮沢賢治・花巻市民の会 会員)、玉山領一委員(石鳥谷賢治の会 会長)、多田 章委員(矢沢地域振興会 理事)

#### (2) 事務局4名

市川生涯学習部長、鈴木館長、晴山副館長、宮澤主査

審議会に先立ち、市川生涯学習部長より委嘱状交付

各委員より自己紹介

鈴木館長より職員紹介

鈴木館長より委員7名中5名出席により審議会成立の報告、並びに会議の公開について説明

### 4 会議の概要

#### (1) 開会 鈴木館長

#### (2) あいさつ 市川部長

#### (3) 会長、職務代理者 選出

市川部長を仮議長として、会長に中島健次委員、職務代理者に高橋則子委員を選出。

#### (4) 会長あいさつ 中島会長

### 議 事

#### ① 平成29年度事業報告について

晴山副館長：資料説明

中島会長:ここをリニューアルしたのはいつでしたか。

鈴木館長:平成27年の4月です。

中島会長:来館者からリニューアルについての意見、つまらなくなったり良くなったとかはありますか。

宮澤主査:どちらかと言うと楽しかったとか、賢治さんのことをすごく勉強できたなど、意見を書くノートを設置していますがそれを読むとそこまでひどいことは書かれていないかなと思います。

瀬川委員:リニューアルに関しては、あまり評判良くないというのが花巻市民の会での話です。何か素通りしてしまう方が多いようです。すごくパネル類が多くて、ある程度賢治中級者とか賢治に興味ある人はじっくり見るのですけれど、団体客や初心者の方はわりと素通りしてしまう傾向ではないか。例えばパネルをテーマによって色分けして、これはこういうテーマなのだよと分かるようにし見つけやすくしてはという意見がありました。去年アザリアの時の入館者が18日間で10,094人は、1日平均500名以上だった。29年度1日平均の317人を大幅に上回っているので、こういう企画があるとリピーターも増えてくるのではないか。今樹木というものをやっていますが、市民の会では樹木には四季があるはずですから、展示も四季を工夫したものにすればよいのかな、という声が出ていました。

中島会長:リニューアルしたものを軽々しく直すことは出来ないと思いますが、範囲内で今のような意見を反映した形でちょっと変えることは可能なのですか。

市川部長:それなりに監修された訳ですから簡単には変えられないということはあるかと思います。賢治記念館の難しさはそこがあります。そういう意味では下の童話村は観光に近いイメージです。ちょっと難しいのではというご意見は私も聞いています。高村光太郎記念館は難しくないと言われますが、知名度なり研究が進んだから宮沢賢治はこういう風になっていると思います。研究がしっかり進んで、それを踏まえて検証して表現したいとなると、このような展示になるとと思います。様々なご意見を踏まえながら直せる部分は直していきたいと思っていますので、ご意見をいただければと思います。

中島会長:30分見れば次に行こうという人と、一日いてもじっくり見るというような階層があると思います。

瀬川委員:賢治学会の会員も減ってきていて、なぜ減少傾向なのか。リニューアルしてからの1日平均入館者数も減少傾向にあるので、共通しているものもあるのかなと思っています。簡単に言えば賢治記念館は難しい、めんどうくさいということです。光太郎記念館は初期段階でメリハリがある。こちらは進んでしまった故にすごく専門的になって逆につかみが無い部分が出てきたりしますので、リピーターに来てもらうためにはアザリアみたいな企画展で来てもらうのですが、初めて来た人がもう一回行くべというような仕様にはあんまりなっていないのではないかな。ここが難しいところなのですが、もちろん監修者があってそういったところも尊重しながら、いかにしてソフト面であまり金をかけないでリピーターを増やすと言うものが求められていると思うのですが、そこはアイデアを出していくことになると思います。

中島会長:常設の展示の部分と企画展の二本立ての部分があるので、企画の中で賢治記念館としての特色あるいは入館者の階層にそれぞれの分野で対応できるようなことが必要だと思います。

高橋委員:専門的には分かりません。皆さんコンパクトなところを喜んで見学するのではないか。光太郎記念館も大迫の展示館もコンパクトで、あれくらいの広さだと時間かけないで見られる良さがあるとお客さんが来るのかなと思います。こちらになると分野ごとに細かく現されているので時間をかけてじっくり見ないと損した感じになる。そういう所で来館者の色々意見はあると思いますけど、私はまもなく後期高齢者に手が届くのですが、だんだんに字が小さすぎて良く見えないです。せっかく展示しているのが良く見えないことがあります。暗い所で小さな字で貼ってあるとまあよく見えないからいいだろうと、大雑把に見て歩くことが多くなりました。高齢者が多くなってきているから何とかすればいいのだろうけど、そうではなくて自分の問題だしなと思ったりしました。あと耳の聞こえない人が多くなってきて、自分も含めて勝手な人が多いと思っております。そういう人たちを相手にして万人向きというのは大変なことではないかと思っています。

中島会長:高齢者は大事なお客さんですね。賢治さんに出会ったとか、賢治さんを知る人と接するぎりぎりの世代というかそういった部分では高齢者が大事だと思う。字が小さい部分も可能な部分と不可能な部分とあると思うので、照明とか補助的なもので補うのも大事なかなと思います。どの階層にもとなると、何回も言っているけど難しいものがあります。大迫の猫の事務所と情報的な交換はあるのでしょうか。

市川部長:情報交換的なものは無いのでは。

中島会長:共通の部分は無いのですね。

玉山委員:私もこの館を作るときに農学校の同窓会で資金集め等に関わったけど、そばにあってもなかなか記念館に来ない。今度委員に委嘱してもらったが、館の中身について実態が分からない。本当は会議をする前に中を案内してもらってあらかじめのことをつかんでなら話を出来るが、ここに来ていきなり入館者が少なくなってどうだとか字がどうだと言われても、最近来ていないしぜんぜん見えてこない。私か来て調べておけば良かったけれど、やはり各運営委員で実態をつかんで話をしないと駄目ではないかと思う。賢治さんについてはうちのメンバーにもいるが、やたらと学者みたいになってしまうのは駄目だと思う。隣にいる賢治さんでいいと思っています。親しみがあって賢治さんがいると安心するとか、学者じゃなく言葉尻を捕まえてどうのこうのは必要ないと思う。原点に返るといふか、どういう風にやって賢治さんを知ってもらおうか、そこらへんが根っこに無いと駄目かなと思う。学者の話聞くのもいいけど私も年なので話を聞くのは面倒くさい。私が学校で聞いたのとだいぶ違うなと思うことがある。勝手なお願いだが、少し館の中を案内してもらいたい。そしたらここはこうだとか今回はこういうことについて皆に相談したいとか意見を聞きたいと前もって教えてもらえば、私らも役員会を開いて意見を聞くとか出来ると思うし、賢治の会も大迫や東和の横のつながりも大事だろうと思う。賢治記念館が核になる施設だろうと思うけど、いろいろつながりを持ちながら一緒に考えていく方がいいのかなと思う。

中島会長:まったく同感です。わたしどもは運営審議会委員という辞令をもらった訳ですけど、私自身も学者でもなんでもないし、逆にそういう視点が必要というか、高い賢治さんになってしまっただけで素人の単純な意見や質問を言えない状況もある。裾野を広く一般市民に対して分かりやすく入りやすくするためには、それぞれの地区の賢治の会が大事なんだけど、辞める人が増えたとすれば、いろんな原因があるけど遠くなりすぎているかな、深くなりすぎているかなという部分もあると思います。そうは言っても賢治記念館で何を展示しているかは、後でじっくりと見ていただきたいと思います。

多田委員:私もリニューアルは気になっていまして、その後の反響についていろいろ意見が出ましたけれど、子供から年配の方まで楽しめる施設であればいいのかなと思う。小学生や中学生が休みの日にキャンパスカードはあるのですか。こ

れから夏休みに入ると思うのですが、先ほどリピーターの話がありましたが、気軽に遊びに来るような感覚で子供たちにも分かりやすい感じであれば、さっき言った学術的な高いレベルの内容でちょっと近づきたい事だとリピーターも無くなる心配もあります。入館者も大事な観光面の要素も大いにあると思うので、リニューアルの反応は気になっていました。かと言ってどうすればよいか言えないですけど、ちょっとそこが気になっていましたので。低年齢層から高年齢層まで気軽に楽しめるので、また行ってみようかなという内容だといひのかなと思います。

中島会長:皆さん共通する部分でした。それを踏まえて部長さんから

市川部長:いろいろご意見を頂いておまして、先ほどお話したとおり研究施設というか宮沢賢治記念館というレベルになりますと逆の意味で幼稚な施設という訳にはいかないというのがあります。当時監修者もいろいろ考えておやりになったのだらうと思います。そういう意味で全く知られていない人を紹介する施設とは違う難しさがあるかと思う訳です。私も地域の人に来ていないのではないかという不安はありますので、そういうところもうちょっと親しみの持てる記念館にできないかなというのがあります。やまなし展も子供たちにとって親しみのある企画展だったと思いますし、PR不足もあるかもしれません。企画展を工夫しながら地元の小学校とか中学校に来てもらわないと裾野の広がりはないので、学校と協力してやって行きたいと思います。

中島会長:とりあえず事業報告についてはご了承頂けたと思います。

## ② 平成30年度事業計画について

晴山副館長、宮澤主査:資料説明

瀬川委員:説明で「ゼロ引きのゴーシュ」の成立過程が面白いという話がありましたが、どういうふうに面白いかのセミナーみたいにする機会はありますか。

宮澤主査:セミナーの予定は特に無いですが、展示で成立過程のこういったところが面白いかということに触れております。もちろん説明を求められればお話しいたします。

瀬川委員:それは3期のうち1期しか見られなかったとかあると思いますが、それでも分かるのですか。

宮澤主査:そちらは図録が用意されておりますので3期分の内容がすべて載っていま

すので、部分的にしかご覧になれない方も網羅している形です。

瀬川委員:できればお話も聞ければと思います。

宮沢主査:ギャラリートークのような形で行うことも出来るかなと思っております。

瀬川委員:「ゼロ引きのゴーシュ」と言えば、高畑勲さんのアニメがありますが、あれを上映する話は出てきませんでしたか。

宮沢主査:そういったことも考えましたが、当館で何が展示としてできるかと言うと実物資料を見たいと言う声が大きいのので、当館で出来ることに特化すると擬似的な創作物よりは館らしい物と言うことで今回はアニメーションの公開はしないということです。

瀬川委員:やろうと思えば出来ないことも無いのか。

宮澤主査:ジブリさんと交渉しなければできないと思いますけど。

瀬川委員:イーハトーブ館との連携みたいなものを考えれば、そういうものも面白いのではないかと。実現可能な範囲で出来れば検討してもらいたい。

宮澤主査:今後、他の施設との連動を考えることは大事だと思っています。

中島会長:この特別展のチラシというのは、全戸配布ではないのですね。関係機関に置いておくものですね。成立過程もそうですが、「ゼロ引きのゴーシュ」は賢治さんの入門編ですよ。地元の人でも成立過程が分かるのであれば行って見ようかなと思う。広報というかパブリシティ公開というか全戸配布できないと思うけど。賢治さんのプロはこれを卒業して、濁点がどうだという世界と、こちらは入門編でいい企画だと思いますので十分なPRはしていただきたいし、説明を聞いて初めて成立過程がわかるのかと言う面も含めてPRしてもらえばより身近になる。

玉山委員:区長配布で回覧させることは出来るのでないの。

鈴森館長:広報の7/15日号に記事を載せています。

玉山委員:字は見ないよ。

中島会長:そこまで手取り足取りするかはあるけどPR方法としてはビジュアル面で絵を前面に出すとかあれば。

玉山委員:ここに賢治まちづくり推進事業とあるが、市に賢治まちづくり課があるが、そこの関係はどうなっているのか。賢治まちづくりに関して賢治まちづくり課で独自にやっているのか。

市川部長:賢治まちづくり課は全体を把握し、童話村も賢治まちづくり課の管轄です。賢治に関するイベントは賢治まちづくり課で分かっています。さっきの広報については経費の問題があります。広報に載せたらチラシは全戸にやらない考えだと思う。それは広報担当とのやり取りも必要になると思う。できるだけPRはしていきたいと思えますし、学校通じて配布する手もあります。広報を見ていないと言っても実は高齢者の人は見えています。何を見てきましたかと聞くと広報を見て来たという人は実は多い、若い人はホームページですが。そういう意味では広報の力はあるかと思えます。

玉山委員:広報に催し欄があるけどなかなか見ないと思う。いかにして見せるかだと思う。

市川部長:ポスターはいたるところに貼っています。目につきますし評判も良いので期待している。

中島会長:こういう施設で入館者の増減は一喜一憂してはならないけど、ある種努力の部分は必要だと思う。気にはしながら一喜一憂しないでほしい。

瀬川委員:市民の会で出た意見ですけど、団体さんには必ずガイドをつけた方がよいのではないかという話があり、実際はついているのですか。

鈴森館長:全部ではなくご希望のある団体に説明しています。大きな団体は一斉にご案内するのが難しい部分もありまして。可能などころでは観光ボランティアさんについていただいて、できる範囲でご案内しています。

瀬川委員:団体となると見ている人の温度差があって、さっさと行く人と時間をかける人があると思います。なるべく団体にはガイドをつけた方がと言う意見があったのと、賢治さんの山を展望室の窓に貼り付けていると思いますが、それに山にまつわる賢治さんの詩なり歌なりを短冊でもいいからつけると関連性があるのではないかと言う話がありました。これはやる気をすればできると思います。南斜花壇を降りていく人は結構いますか。年寄りの方とかきつい部分があるのでは。

鈴森館長:いらっしゃいます。下に降りる方、下から上の方でご利用いただいています。

す。整備してお花も咲いていますのでそれを見ながら散策していただいています。

瀬川委員:運動性あげて滞在時間を長くしてもらいたいと思います。あと熊は大丈夫ですか

鈴森館長:ちょうど博物館の駐車場のあたりにでました。あと矢沢地区周辺に出ています。

中島会長:注意喚起はしているよね。

市川部長:熊が出たとかの情報は施設で連絡し、賢治まちづくり課でもとらえています。

瀬川委員:回遊路もあるが、浅沼さんに聞いた話では、下草を刈っていただければいいらしい。

鈴森館長:先日熊の情報がありまして、胡四王山の遊歩道の草丈も高くなって、歩く方もいらっしゃるので、遊歩道を管理する農村林務課に先週草刈をしていただいています。

多田委員:外国人は来ていますか。

鈴森館長:チャーター便が飛んで、台湾の方の団体が増えてきております。

多田委員:台湾の定期便が出来るのと、たぶんこちらがルートになるのではないかと

鈴森館長:外国人の方は増えてきているなと感じています。

多田委員:説明とかはどうなるのですか

鈴森館長:QRコードをスマホで読んでいただいて、スマホに表示が出る対応はしていますのでご案内しています。

多田委員:台湾の人は結構来ているの。

宮澤主査:海外のメディアの方が取材に来て、その方たちが書いたものを見てこちらに来る人があります。取材も海外の方が多くなっているので情報発信できているのかなと思います。

### ③ その他 特になし

(5) その他 特になし

(6) 閉 会 鈴森館長 11時20分閉会